

第3回なかい戦略みらい会議議事録

日時	2015年10月27日(水) 10:00~12:00
出席者	資料参照(欠席:加藤委員、及川委員、湯川委員、柏手委員)、アルパック:3名
議題	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 協議事項</p> <p>1) 中井町人口ビジョン素案について(資料1)</p> <p>2) 中井町まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について(資料2、2-1)</p> <p>3) 中井町人口ビジョン・総合戦略策定に向けたスケジュールについて(資料3)</p> <p>4) その他</p> <p>4 その他</p>
議事	<p>●座長、○委員、◎事務局</p> <p><b>1 開会</b></p> <p>◎権守企画課長より開会のあいさつ</p> <p><b>2 座長あいさつ</b></p> <p>●杉本座長より挨拶</p> <p><b>3 協議事項</b></p> <p><b>協議事項(1) 中井町人口ビジョン素案について</b></p> <p>・資料1にもとづき、説明および協議</p> <p><b>【人口ビジョン素案について】</b></p> <p>◎前は合計特殊出生率を県の希望出生率である1.42としていたが、出生率をあげていかないと、人口移動だけで人口を維持することは、全国的に減少する人口の奪い合いになること、また、将来人口に関する目標設定が低いと施策が充実していかないという意見もあり、合計特殊出生率をさせ、純移動の見込みを低く押さえる設定に変更</p> <p>◎現状として10代後半~30代前半までの進学、就職、結婚に伴う近隣市町への転出が多く、20代~30代の女性比率が低い状態にある。合計特殊出生率も平成22年は中井町1.21、国1.38、県1.30であり、国と県と比較すると低い状態で、人口減少が進んでいる。人口減少の抑制の考え方として、子育て支援の充実による生まれてくる子どもの数の増加=合計特殊出生率の上昇、生活環境・雇用環境の改善による町外からの転入促進と町内の転出抑制、健康増進として未病対策による死亡率の軽減により、人口の年齢バランスの改善が必要</p> <p>◎将来目標人口の推計条件については、合計特殊出生率の向上と転入促進、転出抑制による若い女性の人口増加を図ることを目指して設定</p> <p><b>【協議】</b></p> <p>座長 ●一番大きなハードルは5年間で出生率を0.1上げることと、転入50人という数字だと思いましたが、純移動を徐々に増やすということはできないのでしょうか?</p> <p>事務局 ◎難しいです。</p> <p>座長 ●それでは人口ビジョンについては、平成72年に目標人口7,000人ということで進めたいと思います。</p>

	<p><b>協議事項（２）中井町まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料２、２－１にもとづき、説明および協議</li> </ul> <p>【中井町まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について】</p> <p>◎平成 27 年度の先行型は全額が交付金となっているが、平成 28 年度の新型交付金については、交付金が事業費の 1/2 となり、町が 1/2 を負担しないとイケないため、事業選定をしっかりと実施することが必要となっている。また、地方創生総合戦略の計画期間である平成 32 年以降の交付金については不透明であることから、平成 31 年度までに完了できる事業を中心に事業を選択し、仕組みづくりが重要と考えている</p>
事務局	
座長	<p>【協議】</p> <p>●今回の創生プロジェクトは民間を含めて実施していかないと、目標達成は難しいと考えられますので、各委員からの提案事業については追加でご説明をお願いしたいと思います。</p>
座長	<p>●P. 7~の各プロジェクトについて検討していきたいと思います。</p>
武田委員	<p>○農産物の加工品の直産品としてのブランドを作るという意見は、だいぶ前からあったと思います。中井町では農産物品評会を 11 月ごろにやっていて、何百点もの農産物が出品され加工品も併せて J A の女性部が中心となりやっていますから、農業に関する事業については、J A と農家との連携がより一層必要だと思えます。ただ、今は金融、保険関係の事業の方が利益率が全然良いですから、農業に関する事業は縮小傾向にあり、農家も減少していますから難しいのは分かりますが、J A が中心にならないとイケないと思えます。</p>
座長	<p>●農産物の J A ルートというのは元々あって、農家の方が作ったものの量や質の問題で J A が扱えないと、販売してくれない訳です。そうした理由もあって、J A の直売所で置けないものもあります。しかし直売所は J A だけでなく、民間に近いような形で行っているところもあります。J A を通すと利益が J A にも取られますが、通さなければ収入は増えます。それには J A を通さない販路を広げていくことが必要で、J A では置けない農産物を生活者も求めている場合もありますから、新しいビジネスを作るという意味でも販路拡大は必要だと思えます。J A の直売所はハードルが高くて持ってイケないという声も聞きますし、もう少し気軽な直売所を作って農産物を毎日持ってイケれば、それを現金化できますから働き甲斐も生まれて、農産物の供給者どんどん増えていきます。その中で新しい生産組合みたいなものを作ったりして、質が高くなれば J A でも扱ってもらえるようになると思えます。J A はどちらかと言えば、大規模農業、集約農業などの効率性を追求したが農業が主流になると思えますが、農家さんでは楽しみながら農業をしたいという人もいて、そういう人たちの農産物は規格が厳しいと売れません。アメリカなどではシェフと農家が相談して新しい野菜を栽培するということがあります。そうした細かい対応は J A はできないと思えます。両方の取組みが必要だと思えますが、今回の 5 年間で成果を出す事業となると規模を小さくして、成功できるものを仕掛けていく必要もあるかと思えます。</p>
武田委員	<p>○OP. 8 の（農家企業連携による）特産品販売促進事業という中で、東名高速道路秦野中井パーキングエリア・・・という所がありますが、秦野中井パーキングエリアの一角に野菜を売っているスペースがありますが、ここでは中井産の農産物は扱っていません。</p>
座長	<p>●どこが運営しているのかわかりませんが、パーキングエリアの家賃は売り上げの 15~20% くらいなので、個人の農家では難しいと思えます。地域ブランドのものを出そうとすると、行政なりがきちんとスペースを確保して、そこに農家さんが持っていくという形でないと難しいです。</p>
武田委員	<p>○販路が非常に問題になっています。販売である程度利益が取れて面白くなれば、やる人も増える</p>

<p>座長 武田委員</p>	<p>と思います。朝市は役場が作ってくれた中央公園で週2日土日でやっているの、それを毎日できればそれなりの売上があるのではないかと思います。</p> <p>●今の場所は町中ではないと思いますが、中央公園は人が集まりやすいのでしょうか。</p> <p>○駐車スペースが十分ありますし、毎日来ている人もいます。町外から来る人も多いと聞いています。</p>
<p>座長 事務局</p>	<p>●3か所と記載されていますが、どういう場所を想定しているのでしょうか。</p> <p>◎パーキングエリア、今後の計画の中で整備が予定される道の駅、道の駅ほど大きなものではなく商店さんなどを「まちの駅」と認定して、町のものを置いてもらうというような形で販売促進につなげて行ければと考えています。</p>
<p>眞壁委員</p>	<p>○パーキングエリアで何を買うかという、地域のものをお土産で買っていったりしますが、中井を知ってもらうという意味での活用が必要です。近隣の名産も取り入れて共存していく道を考えないと、なかなか中井産のものだけではブレイクしていかないと思います。ここは駅がないので、パーキングエリアは一番情報を持って行ってくれる、人たちが立ち寄る所です。戦略の中でどうやって中井を売っていくかということを考えると、パーキングエリアを活用すべきだと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>●秦野中井パーキングエリアと、町なかのバスターミナルなど、町の中心地にあるのが理想的だと思いますが、農地や花の名所などと組み合わせると戦略的に、かつ採算面もクリアしていく必要があると思います。プレイヤーとして女性に活躍してもらうことも必要だと思います。ブランド化してパッケージデザインなどを大学連携で行っているところもあります。デザインがないとブランドのイメージが伝わらないこともありますので、デザイン力も高めることもあわせてやっていく仕組みが作れると良いと思います。</p>
<p>武田委員 座長</p>	<p>○例えば、中井町としてパーキングエリア内にキッチンカーなど置いてくれるのでしょうか。</p> <p>●キッチンカーでも売上の何%かは取られますし、販売の人件費と相当の場所代が必要になりますから、それよりは町中に直売所を作った方が良いと思います。他の市町村でもやっている方法ですし、無人販売でも買って行く人がいます。利幅のことを考えたら、現実的にはイベント的にやっていくのが一番良いかもしれません。ただそれ以前にブランドとして売り出していくのが必要です。南足柄で金次郎野菜というブランドが今結構売り出されています。ブランドの名前も中井らしい名前がないとイメージが湧きませんから、トータルで行っていかないと形になっていきません。</p>
<p>三宅委員 座長</p>	<p>○販売所についてですが、二宮秦野線の沿道に販売所を設けるとい話はないのでしょうか。あの道は直線で広いのですが、沿道は調整区域で建物がありませんから、地元外の人もたくさん通るのに素通りしてしまっています。地元外の人が寄る場所としては良いと思います。</p> <p>●広島で山の中の自治体が、人が来ないので大都市の中で土地を買って直売所を作って売っているという例や、大分でもそうした事例があり、消費地の中に拠点を作るとある程度売り上げが確保できます。いきなりそうした拠点を作らなくても、イベント的に始めることもできると思います。試験的に小さく成功例を作っていくことが大切だと思います。</p>
<p>平野委員</p>	<p>○実利的なことと、郵便局の横のファミリーマートには野菜をたくさん置いています。キャンプに行く車などもそこで食材を購入しています。24時間やっているの、実利を求めるとい点ではとても良い場所だと思います。</p>
<p>座長 眞壁委員 事務局</p>	<p>●実施する際には良く分かっているところと連携するのが大切だと思います。</p> <p>○中井町で今一番作られている農産物はなんですか。</p> <p>◎葉物、イモ類は何でもできます。中村地区は土地が肥沃なので、イモ類、サトイモ、ジャガイモは甘くできます。井ノ口の方は火山灰が混ざっているの、土の中で伸びるネギ、大根、ニンジンなどが主流になっています。これしかできないという土地柄ではなく、葉物も色々なものがで</p>

	<p>きます。何でもできるというのが中井町の特徴です。特に中村側はイモが美味しく、井ノ口側は長ものが美味しいということになります。</p>
座長	<p>●土や水をブランド化するのはすごく良いことです。この土だから野菜が美味しいというのはものすごいブランド力になります。富士に BEPPIN 食堂というところがありますが、半径 500m 以内の野菜を使っており、ものすごいお客さんが来ています。そうした事例を参考にして頂けたらと思います。</p>
座長	<p>●新規農業の話に移っていきたいと思います。起業セミナーや空き家バンクについては、少しずつ進んでいるのかと思いますが、空き家を貸してくれるかどうか非常に重要になってきます。空き家については今少しずつ対策が打たれていますが、今後は活用することが必要になってくると思います。東京 R 不動産というレア物の不動産を扱う不動産業者がありますが、それと似たような不動産業者と連携して、活用を考えていくことも必要かも知れません。また、女性はおいしいパン屋さんと素敵な美容院がないと住まないそうなので、そうした情報を調べることも必要だと思います。</p> <p>新規農業の方には耕せる畑を用意しないと難しいですよ。</p>
武田委員	<p>○そうですね、年に 2～3 件くらいはあります。</p>
事務局	<p>◎現在新規就農者は 3 人います。国から 150 万円が助成されていますが、町単独で農機具の補助も行っていきます。問合せも徐々に増えて来ています。</p>
座長	<p>●そういう方はどこに住まわれるのですか。</p>
事務局	<p>◎一人の方は空農家ですが、ない場合はアパートになります。</p>
河井委員	<p>○その方たちはなぜ中井を選ばれたのでしょうか。</p>
事務局	<p>◎一人の方は、三浦で修行をされていて中井に住んでいる知り合いから紹介されたそうです。もう一人の方は平塚でハウス園芸をやっていて、中井町に農地があるという情報を得て来られたそうです。</p>
河井委員	<p>○情報を得るといのはどうやって情報を得たのでしょうか。中井の農家の方に知り合いがいてということですか。</p>
事務局	<p>◎平塚の中井寄りの地区で中井町のことを聞いて、実際の場所を見て平塚からハウスをこちらに引っ越してきたそうです。</p>
河井委員	<p>○そういうことであれば、具体的な施策の中に金銭的な支援だけでなく、農家の方が積極的に他の農家の方に話したくなる仕組みがあると、期待が持てそうな印象ですね。</p>
座長	<p>●今、茅ヶ崎では農地がないという声があります。空いているのに借りられる農地がなくて困っている人もいます。情報があればぜひやりたいという人がいるはずなので、どうマッチングするか、シティプロモーションの一貫として繋げられると良いかも知れません。</p> <p>人口だけを増やすことは難しいですし、農業をしながら暮らしてみたい人を増やすという方がイメージとしては良いですね。</p>
河井委員	<p>○基本的には「人」だと思うので、若手農家の人たちを積極的に引っ張って来られるような人をアンバサダーとして指名し、その人が色んなところに出かけて行って、中井の土や水の良さを積極的に語ってもらう、語れる場を用意する、その人が更に先進的に取り組んでいる人たちとネットワークを作るために行政が支援する、という仕組みがあると良いと思います。5 人でも連れて来られれば良いと思うので、どう伝えてどう引っ張ってくるのかを考え、それぞれの役割分担を具体的な施策の中で明確に出来れば、実現性があるのではないかと思います。</p>
座長	<p>●全国に道の駅、直売所はたくさんありますが、野菜ソムリエがいて野菜のことを全部説明できるなど、食育ができる場所は少ないです。今の人たちは野菜のおいしい食べ方を知らないので、販売する人たちが説明できるとすごく喜ばれます。そういうことを中井の魅力として伝えられる</p>

	<p>ところを作っていけたら良いと思います。</p>
眞壁委員	<p>○NHKの番組でも八百屋さんで食べ方を教えて、リピーターを増やすという事例がありました。</p>
河井委員	<p>○中井の規模であれば、中井の素敵なものをしっかり説明できる人から色々教えてもらえます。だから中井に来たい、だから中井に住みたいと思う人を増やすことが重要です。人口ビジョンの目標として、中井に来て欲しい人口とはどういう人たちなのかを考えていかないといけないと思います。</p>
座長	<p>●来てくれる人を絞り込んでいかなければならないですね。お題目みたいな話は総合計画に持って行って、具体的な施策については本当に実行できるようにターゲットをもっと明確に絞っていくことなどが重要だと思います。</p>
座長	<p>●P.10~14にいきたいと思います。スポーツについてたくさんの事業が出ていますが、ベルマーレさんもいることですしフットサルに絞るなどした方が良いと思います。また健康についてテルモさんにご提案頂いた高齢者の健康データの蓄積モデルができるといいと思います。</p>
平野委員	<p>○現在、毎日中強度の運動を行うと、最終的に健康寿命を延ばすことができるという活動を行っていて、ある程度の成果が認められています。会社でも行っておりまして、健康診断の結果が確実に良化しています。中井町は1万人規模の町なので、町全体で取り組むのにちょうどよい規模だと思います。ただ、5年で成果を出すことは難しく、10年やるという覚悟がないと意味がないと思っています。今から取り組めば、団塊の世代が高齢化を迎える2025年問題の時に、中井町の町民は元気だということになるのではないかと思います。</p>
眞壁委員	<p>○スポーツ事業については、野球とサッカーに絞っています。ニーズを計算しながら提案しています。野球に強い高校と大学をターゲットにしていくことをイメージしています。ネイチャーツーリズムで山を歩いたりすることで、健康づくりに結びつけたりすることもできればと思います。</p>
座長	<p>●その人の健康状態に応じたコース設定をし、コースを歩いて温泉に入り、食事をするという形の地形医療として、テルモさんとも連携していくことができると非常に面白いですね。</p>
眞壁委員	<p>○今の子どもは走れない子どもも多いので、自然の中で目標を持って歩かせるなど、中央公園の活用も大切だと思います。</p>
座長	<p>●今鳥取で有名な「森の幼稚園」があります。森の中で学んでいくのですが、東日本大震災以降、健康志向が強まっていますから、戦略的に中井町で出来ることがあると思います。施策を絞って実施して行けるようにした方が良いと思います。</p>
座長	<p>●大学連携に移りたいと思いますが、私のところの学生はなかなか難しく、やはり東京に近いところに住んでしまいます。</p>
河井委員	<p>○お金に困っている東海大学の学生がいないと成り立たないと思います。</p>
座長	<p>●一番困っているのは留学生です。大学の周りに下宿して、授業が終わるとすぐにバイトに行くという子もいますから、そういう子たちを呼んでくるというのはあり得るかも知れません。</p>
河井委員	<p>○勤労学生制度というのもあります。勤労学生制度を利用している人をターゲットにするとか、ターゲットは誰なのかということを明確に意識しないと難しいと思います。</p>
座長	<p>●企業側から勤労学生の受け入れの可能性はあるのでしょうか。</p>
平野委員	<p>○インターンシップということになるとと思いますが、実利を求めると難しいと思います。正直年間4~5名程度の受入が精いっぱいだと思います。</p>
河井委員	<p>○インターンに来た人が中井町の良さをPRしてくれるようにするという目標であれば、また違うのかも知れません。</p>
座長	<p>●この辺は少し弱めて、スポーツ重視で行っていく方が良いかも知れません。空き家とつなげるのであれば農業と絡めた戦略としていくとか、そちらにお金を使った方が良いかも知れません。中井に住みたいと思うかどうかはという点については、交通問題が大きいのでしょうか。</p>

平野委員	○家族で住むとなると学校を見据えた生活になるので、就学環境などの面では東京方面へのアクセスの良さというのはどうしても優先的に高くなってしまおうと思います。
座長	●高速バスのPR も一つの手段かも知れません。
眞壁委員	○パーキングエリアの中で商売するのはお金がかかると思うのですが、パーキングエリアに車を止めて外に出ることができるので、周辺に外に出させる策があると面白いかも知れません。
河井委員	<p>○シティプロモーションについて説明させて下さい。追加資料という形で出させて頂いているものです。今年度後半から来年度にかけて、中井町をフィールドに神奈川県と東海大との連携によって行われるシティプロモーションのモデルプラン作成ということで、中井町を最初のフィールドということで考えています。</p> <p>シティプロモーションは、大したことがないものを良く見せるとか、名前を知ってもらおうというところに留まるのではなく、最終的にはこの戦略を作るインフラ作りのようなもので、やる気のある人を育てるのがシティプロモーションです。参画意欲をどれだけ高められるのかが重要と考えています。</p> <p>手始めに職員の人たちがどれだけ自分たちの町のことをお勧めする気があるのか、こうした戦略にしっかりと関わりたいと思うかなどについて意識調査をさせて頂きました。113名に依頼をして7~8割弱くらいの回答率でした。設問2の「中井町の魅力を、友人や知人に推奨（おすすめ）する気持ちはどの程度ありますか。」という問では、「5」とか「7」を選んだ人が多くなっています。しかし、これらの人たちは実際にはおすすめをしない人たちで、実際におすすめを積極的にするのは「8」以上の人たちです。「5」あたりはむしろ悪い評判があるとそちらに流されてしまう人たちで、「7」が中立と考えると、非常にまだ伸ばせる余地があります。「8」以上は15人だけで、78人のうち15人しか自分が勤めている町を積極的に推奨する気がないということです。参画についてはこれより少し良いですが、それでも19人です。これらの人にどうやって積極的になって頂くかということが課題です。自分たちの町の魅力を積極的に語れるようになると、いつのまにか推奨できるようになるというのはデータで分かっていますので、職員の方たちにしっかり町の魅力を推奨して頂ける状況を作っていくことが大切です。職員の方たちが中井町にくるとこんな素敵な暮らしが出来るという魅力をストーリーとして語れる状況にならないと、町民の方も動かないと思うので、そういう形の動きをこの半年~1年くらいで行い、回答結果で8~10と回答する人を15人から30人くらいに上げることができればと思っています。出来れば町民のみなさんにも中井町の魅力を語って頂けるような仕組みづくりを行っていきたくと思っています。</p> <p>総合戦略の素案のP.21のところのシティプロモーション事業についての重要業績評価指標は、地域への推奨度をどのくらい上げるのかということでも良いと思っています。また、P.18のブランディング戦略の基本目標が「利便性の向上」と「公共バス交通円滑化」というのは的はずれだと思うので、地域に対するプライドを持っている人の比率などでも良いかと思っています。足立区では4年前には区民の25%しかプライドを持っていませんでしたが、シティプロモーションを行ったことで3年後にはほぼ50%になりました。ブランディングの基本目標としてはプライドの向上でしょうし、シティプロモーションの目標は推奨度を上げるということだと思っていますので、そのあたりをご検討頂きながら、総合戦略に位置付けていくことができればと思います。シティプロモーションが成功することによって、この総合戦略を実現したいと思う人が増えていくと良いと思っています。</p>
座長	●職員の意識改革の状況を目標値にすると良いと思います。内閣府で研究会をやっていますが、一番の問題は行政職員の意識改革だと言われています。中井町もそれを指標にしたら全国のモデルになるのではないのでしょうか。チャレンジしても良いと思います。
河井委員	○チャレンジできると思いますし、実際には上がると思います。役所の職員の方たちは基本的に誉め

座長	<p>られない仕事なので、誉められる仕組みを作るだけでもずいぶん変わると思います。自分たちの町はどういう町なのかとしっかり考えて、どういう人に来てほしいのか、住んで欲しいのかを考えることも大切です。自分たちの町がどういう町なのかしっかり語れることです。「町民みらい会議」のようなところはとても大切です。役所が旗を振っているうちはまだまだですが、みらい会議のみなさんとかコアな人たちが旗を振れる場所づくりを役所がデザインするような立場になっていければ良いと思います。そして総合計画をしっかり実現していくことが大切だと思います。</p>
事務局	<p>●P. 16 の子育てについて何かご意見はあるでしょうか。P. 16 にある「ネウボラ」というのは、保健婦さんが居れば良いのかということではなく、母親同士がお互いの経験を話し合うとか、助け合うような仕組みにしていく必要があると思います。プロが常駐してそこに行くという形では費用がかかるので、そうではなく場所を提供して、来た人がお互いに助け合うような形にしていく方が良いと思います。子育てのお母さんたちが一番困っていることは、スペースがないということです。それが解消されるようなものになると良いと思います。柏の葉ではそうした場所ができていて、お母さんたちがパン屋さんなども自主運営しているような事例もあります。</p>
座長 事務局	<p>◎中井町では、保育園の跡に子育て支援センターができています。未就園児の親子が遊びにきたり、子育ての相談をすることができたりする場所です。常勤の方が必ず1名いるようになっています。今回はその拡充ということでネウボラを考えています。</p>
座長 事務局	<p>●スペースはどれくらいあるのでしょうか。</p> <p>◎以前の保育園ですので、1~2階で子どもたちが遊べるようなスペースは十分取れています。</p> <p>●利用率を上げるとか拡充することが戦略だと思います。利用者状況や運営はどうなっていますか。</p> <p>◎利用者は多いです。運営は町が行っています。</p>
座長 事務局	<p>●お母さんたちも色々な個性を持っているので、そうした個性を活用することを考えることも大切です。子育てに関しては、縦割りになっていることが問題になっています。もう少しフリーに機能させていくことを考えると良いと思います。お母さんたちが持っている個性を活かした小さなビジネスを活用していく場所を作られたらどうかとも思います。活動を育てていくこと考えた方が良い気がします。</p>
吉田委員	<p>○記載されている子育てプロジェクトの上の3つは給付型のものだと思いますが、地域で協力し合う仕組みを作っていく方が有効だと思います。町も人口が減って財政的にも圧迫するのではないのでしょうか。出産祝い金というのは一時的には大変助かるとは思いますが、その後育てていくことの方が負担になると思うので、同じお金をかけるのであれば別の方法が良いのではないかと個人的には思います。湯河原町では第三子以降は100万円という制度があり、子どもも実際に増えたそうですが、アンケート調査をするとお金よりも子どもを育てる環境の方が大切だ、という結果がでたと聞きました。難しい問題だと思いますが、財政的にも限りがあると思いますので検討の余地があるかと思います。</p>
小清水委員	<p>○私も同意見です。3人の子供を中井町で生ましましたが、おむつ券とかミルク券などの方が生まれた子に対してきちんとお金をかけられるのではないかと思います。公園を1つ作るというだけでも良いと思います。</p> <p>●小田原市では最初の子どもが生まれると産業支援を兼ねて、ウッドファーストというのをやっています。木のおもちゃを地元で作ってプレゼントするというものです。別の目的がないなら現金の給付が良いとは思いますが。</p> <p>○出産祝い金の使い道については各家庭の判断になってしまうので、出産祝い金が出生率の向上につながるかという点については、疑問があります。</p> <p>また、子育て支援センターはありますが、小学生が遊べる場所がなく、外で遊ぶといっても道路を走っているだけなので、子どもが安心して遊べる場所が1つでもあればと思います。</p>



眞壁委員	○運動公園は不審者が多いです。残念ながら父兄の携帯に連絡を流すくらい多くあります。日本の公園は木を植えすぎて、死角が多いのが問題です。総合型スポーツクラブとして学童保育機能を兼ねたものを目指していますが、今後は高齢者が楽しむ公園と子供が遊べる公園とで分けることが必要だと思います。幼稚園が公園の中にあって幼稚園児が帰ったあとは学童保育の場になり、それらの収益でセキュリティをしっかりと整えるということが理想だと思っています。
座長	●今は学童保育が町中に点在しているところが多いので、子どもを送迎しているところがあります。キーステーションがあってそこに子供が来ると施設まで連れて行って来て、両親が帰ってくる時間になると帰すという仕組みです。中井町は割と施設が分散しているので、中央公園をキーステーションにする仕組みができれば良いかも知れません。
眞壁委員	○セキュリティは公園の場合は厳しいものがあります。費用の問題もあると思います。
座長	●この戦略でやることは絞り込み、それ以外のものは総合計画に持っていった方が良いと思います。P. 17の「地域の専門家が先生事業」というのは、学童保育などで高齢者に活躍してもらったら良いのではないのでしょうか。茅ヶ崎市では制度を作って、高齢者で時間のある方が先生になって教えるという取組をしています。海外で仕事をしてリタイアをした人が英語を使って子どもと遊んであげるとか、付加価値を付けるのは良いと思います。学生を利用するのであれば、留学生に語学を使って子供たちと接する環境を作るとか、遊ぶときに英語で遊んでくれるという環境などはとても魅力的なものになると思います。中井町にインターナショナルな場所があれば、そこなら預けたいという人が増えるかも知れません。
座長	●P. 22の農業のところですが、田んぼアートは誰がやるのかという課題があると思います。アートは効果がありますが、継続するにはお金がかかります。社会実験的にやるには大学の芸術学部と提携してやるという道もありますが、基本から言えば荒廃農地を市民農園や新規就農者に提供していく方が良いと思います。ただ、そうした方に中井町を知ってもらうという意味でイベント的に実施するということはあると思います。体験農場を仕掛けていくという点については、就業したい人に一時的に参入してもらい、それから本格的にやる制度としては良いと思いますが、テーマパークのようにお膳立てして乗ってもらう事業はやるべきではないと思います。
平野委員	○子育てプロジェクトについて、現実問題、共働きの家庭がほとんどだと思うので、安心して働ける環境の充実が、若い世代の人たちが住みやすい環境につながるという切り口があると思います。一時的なお金を支給するより、長い期間、安心できる仕組みが町からも提案できればインパクトも違うのではないかと感じました。
座長	●そうですね。
大槻委員	○企業側のニーズとしても、そうしたものがあるのではないかと思います。現実転勤があっても、奥さんの方が経済的なハンドリングのオーナーになっていることもあります。最近朝、乳母車や自転車にお子さんを乗せている男性も多く見ます。この4~5年で環境が大きく変わるのではないのでしょうか。
座長	●子ども環境を良くすることが一番大切でしょう。子供を預けたいと思う世代が一番働ける世代で、企業としても欲しい世代ですし、きちんと預かる場を作る方が大切だと思います。
小清水委員	○パートをしても、子どもの下校時刻に合わせなければなりません。病児保育などもきちんとあれば、安心して働ける環境が整っていくのかと思います。子どもたちが良い環境で育っていけば、中井に戻ってくるようになる可能性も広がるのではないかと感じたりします。
座長	●ママカフェなどはお母さんがいる所に預ければ良いだけですが、どこかに預けるとなるとお金がかかったりしますから、みんなそれで困っています。
小清水委員	○中井町でも預かり保育はありますが、事前申請が必要でお金が発生するというのもあるので、お母さんたちのネットワークでやっていくことができればという想いもあります。



座長	<p>●一つの仕事を3人でシェアしてやっていて、子どもが病気になったら1人のお母さんが預かって2人が仕事するとか、チームワークでやっている人たちもいます。中井町でもそうした環境づくりをイメージして子供の施策を検討していくことができればと思います。</p> <p>他に何かございましたら、電話やメールなどで事務局にご連絡下さい。</p> <p><b>協議事項（3）中井町人口ビジョン・総合戦略策定に向けたスケジュールについて</b></p> <p>・資料3にもとづき、説明</p>
事務局	<p>◎不明点については各委員さんに個別に問合せをさせて頂くことがあるかもしれませんが、その際はよろしく願いいたします。次回第4回までには事業の絞り込みをさせて頂き、案として提示させて頂きたいと思います。</p> <p><b>協議事項（4）その他</b></p> <p>◎次回第4回日程 12月22日（火）午前10:00～開催予定</p> <p>◎開催通知については後日送付</p> <p>◎資料については事前に送付する</p>